

SA 吹田 通信 第6号

2003年11月

発行 SA吹田 事務局 〒565-0821 吹田市山田東4-41-4-506
TEL&FAX 06-6876-1437

SA 吹田全体集会を終えて

副会長 橋 ユミ子 (SA14期)

去る11月14日(金)午後1時30分から北千里公民館にてSA吹田の全体集会を行い24名の方が出席されました。1期修了の森田さんを始めとして先輩の皆さんの参加は、SA吹田の運営を担っている私達の励みになりました。丹羽会長より活動報告がありシルバーアドバイザー連絡協議会との関わりなど、十分な説明がなされました。千里高校の生徒との交流会の企画はそれなりの評価を頂き、担当された奥さんはじめ皆様にはご苦労も酬われたことと思います。

また、よりよい連協の組織運営のための会則の見直しや会費の値上げ検討の件につきましては貴重なご意見も頂きました。【SA吹田通信】については各自各地域で活発に活動している様子がよくわかってよいとの評価を頂きました。これからは、吹田市にシルバーアドバイザーを認めてもらうために、SA吹田の活動を充実させることが重要だと思いました。

高齢者の料理勉強会と話し合い(別名 男の井戸端会議)

本田 博子 (SA10期)

男性は78.32才、女性は85.23才と平均寿命が延び120才迄生きられる時代になった。反対に次世代は少子化、孫ゼロ時代が心配される。

★食生活について思うこと

朝7時コンビニで好みの弁当やサプリメントを買う多くの若者。スーパー、デパート、ホテルの惣菜売り場は大繁盛。有職主婦、独居、高齢者には重宝。しかし、その日の売れ残ったものはどう処分されているのだろうか。日本の食糧自給率は40%。世界人口のうち8億人が飢えに苦しみ、4秒に一人、子供が餓死していると言う。

また、キャベツは出荷までに38回農薬がかけられるとか。輸入野菜の残留農薬、不許可の保存料や添加物の検出。養殖魚の汚染、狂牛病等々、何を食べれば安全なのか。家々から流れる夕餉の準備の匂いに、ワクワクしながら家路を急ぎ家族揃って賑やかに食卓を囲んだ光景はいつ頃までのことだったのか。

祖母、母、子へと日々の生活の中で塔われ、うけつがれた文化、伝統、積み重ねられた生活の知恵、技術、おふくろの味はどうなっているのだろうか。平気で自分の親を殺し、我が子を虐待死させる等、我々の世代では考えられないことが起こる。

★食生活の見直しを

生きるための基本の食生活を、手軽さ、豊かさだけでなく、もう一度見直し「地産地消」「身土不二」「スローフード」と住んでいる土地で生産された旬のものを大切に、丁寧に調理することが一番健康に道していることを考え、自分と家族を養う食生活を考えてなおしてみる必要を痛感する。(心と身体を育てる食育)



高齢者は心・身体・脳を健康に保たなければ医療費、介護保険は破綻し、家族も困る。バランスよく、経済的に生活習慣病にならないように自分の食事を自分で作るにはどうすればよいか。

色々の問題を抱え時代とともに生活様式も変わってくる中で、新しい情報を正しく受け止め、どうすることが本当に自分に良いのか。毎日の食事の用意を試行錯誤しながら、私自身が日々努力していることを、そのまま吹田市総合福祉会館で月一回60才以上の（現在最高83才）特に男性の方々に「高齢者の料理勉強会と話し合いの会」を始めて5年、45回を重ねた。つくって、食べて、いつも少し多めにつくった分をお土産に（家族の方も楽しみにしてくださっているらしく話題も増えるとか）。午後はそれぞれの得技を生かして話し合い（別名男の井戸場会議）。情報交換、工作、玩具作り、頭の体操等々。（9月は痴呆の予防。10月は“愛国心”の読書感想）。コーヒータイムでの他愛ない話も結構癒しになっている。

嬉しいことに今年になり新しいお友達が3人増えた。皆様に支えられてここまで継続できたことを心から感謝している。私も満78才、何時まで続けられるかわからないが高齢者の視点に立って、必要に迫られていることを解決する方法を模索しながら出来るところまで続けられたらと願っています。

円照寺の歴史（円照寺縁起より）とその秘仏の数々(第2回—2) 奥谷 博 (SA15期)

室町時代になっても、7堂伽藍の他、多数の僧坊があり、円実坊、阿念坊、等々、円照寺の別当を輪番で勤め観音堂、金堂、奥の院等を奉仕していた。

★元徳元年（1329年）播磨の守護大名赤松則祐が摂津守護職となり、元弘元年（1331年）に山田中村に山田城を築いたといわれ、この時から円照寺が衰退し始めたと思われる。

★元弘3年（1333年）鎌倉幕府滅亡。足利尊氏の室町幕府の成立により60年間（1336年～1392年）にわたる南北朝の内乱が起り、円照寺にも大きな影響を及ぼしたと思われる。円照寺には、南朝の忠臣楠木正成公（湊川の戦、1336年戦死）所用の乗馬用の鞍の青貝地乗鞍一具が残されている。円照寺が衰退したとはいえ7堂伽藍、多数の僧坊を保たれると「山田村郷土誌」に記載されている。しかし、応仁の乱（1467年～1477年）で本願寺・蓮如と細川家との関係から、真言宗への弾圧で、さしもの円照寺も破壊され円実坊のみとなってしまった。細川家の家臣香西玄蕃が山田村中村に城を構え、寺領を略奪、伽藍等を破壊、火にかけ、次々と侵略していった。

この時、円実坊主阿闍梨覚玄が寺の復興をかけ、草堂を建て本尊や諸尊を供養していたが、トラブルに巻き込まれ書写山に逃れた。阿闍梨覚玄の弟久兵衛が、円照寺の寺事務を引き受け、別所池上家初代となった。久兵衛の三男三左衛門は、天正17年(1589年)寺内の屋敷道場を小川奥谷に移し、安養寺を開祖。その弟は山田上村に宗名寺を開創。池上家、安養寺、宗名寺で円照寺復興のタイミングを図っていた。山田村は豊臣の領地であったが大坂夏の陣で豊臣家が滅亡し、寛永10年(1633年)山田村全域、北摂の多くが京都所司代・板倉周防守重宗の所領になった。寛永14年、小川村から別所村を分離。地元の池上家を中心として円実坊に円照寺の復興を請願した。明暦元年(1655年)覚祐が入寺して、領主板倉周坊守重宗のもと、旦那衆の援助により円照寺の再建が始まった。蓮間ヶ池に埋めてあった仏像や、焼け残った仏像を集め、安置し、再建されたのが現在の円実坊円照寺である。

【参考資料】

吹田市立博物館学芸員 滝沢幸恵 御開帳記念講演「縁起が語る円照寺の歴史」
円照寺 千手観世音菩薩御開帳手引き 「円照寺の歴史」
「すいた歴史散歩」吹田市教育委員会発行

府立千里高校家庭科 高齢者交流会

奥 正昭 (SA14期)

去る4月老人総合センターへ、府立千里高校家庭科西田先生より、授業の一環として「地域に生き活きと生きている、人生の先輩を囲み、語り、相互の理解を深め、伝承おもちゃを教わり、親睦を深め、交流を実施する」を主旨として、SA吹田に参加協力の依頼があった。役員会で検討の結果引き受けることにした。材料の竹は老人総合センター横の竹林より6人で伐採し、それぞれおもちゃの半加工まで準備して、持ち込むことにした。

2年生生徒、8クラス326人、10月20日(2回)、22日(2回)、27日(2回)、30日、31日と8回の授業に参加協力した。

授業の予定は、SAについて話をし(5分間)、SA7人が各自の体験談を話し(15分間)、その後生徒を5,6人1組8班に分け、おもちゃ作りに入る。

10月20日交流会の初日、午前10時府立千里高校に6人、10時30分交流会開始、今までSA吹田その他で活動してきたが、小学生以下の子供、父兄が対象で、高校生は初めて。どのような反応があるか緊張する。

まず、SA参加者が自己紹介をし、20日の担当、丹羽会長がSA活動、体験談を話す、生徒は非常に熱心で静かに耳を傾けて聞いてくれた。ひと安心する。

まず、竹箸作りに入る、幅2.5cmの竹を半分にして、小刀で生徒の好きなような箸の形にするよう指導、小刀の使い方、竹の割り方について、工作台を囲みながら全員で指導する。大部分の生徒の声として、最近是小刀を使わない、幼稚園小学校等で使用して以来と言う声だった。

次に、ブンブンゴマの作製に入る。黒板に設計図を書いて、竹を薄く削って2カ所に孔をあけて、タコ糸を通して完成。マーカーで好きな色を塗る。回してみてもうまく回った時には、高校生でも小学生と同じ大きな歓声を上げて喜んでいた。又、休憩時間に出来立てのブンブンゴマを回しながら廊下を歩く生徒も多くいた。27日だけは古樫さん(SA11期)の指導で、シュロの葉でつくるバツタを作って、その外は、山地さん(SA12期)の指導で竹トンボを作製して交流会を終えました。8回の参加者は延べ67人で、内16期生は16人でした。参加者の皆さんお疲れさまでした。

ボランティアと十年

三宅 博 (SA5期)

振り返ってみると、友達に誘われて老人大学福祉科に入学、13期生として学ぶことになった。当時離職後は、毎日のゴルフだけが楽しみでマンネリ化していたので、取り敢えず参加することにした。然し予想外に多彩なメンバーに出会うことになり、興味を持って楽しみながら1年が終った。引き続いてシルバーアドバイザー養成講座の『地域活動』に5期生として進み、各方面で活躍された人々と日を追って親しくなり、雑学を随分学ぶことで楽しい毎日であった。卒業して10年以上経った昨今でも、日帰りで美味しいものを頂いたり、春夏秋冬は定期的に旅行に行くことになっているので、10数名の愉快的グループの継続を楽しんで参加している。ボランティア活動もSA当時見学に行った弘済院第2特養ホーム「痴呆とアルツハイマー棟」のレク活動のリーダーを引き受けて8年になる。今では色々なグループとの交流を通じて、広範囲な活動にも参加してボランティア関連の方々とも面識ができて、付帯する責任を感じながら生甲斐のある業務内容に取り組む楽しみが少し解ったように思われる。

今後の方針として健康を第一に心得、無欲の精神でボランティア活動の仕上げを精一杯努力する心算である。毎日が予定で追われているが、適度な緊張もあり『ボケ防止の良薬』になるように信じて頑張りたいと思っている。

SA吹田 活動予定 (12月)

- 12月7日(日) 2003 吹田国際交流フェスティバル・・・万博公園東広場
おもちゃ作り
- 12月21日(日) 青山台クリスマスの集い・・・青山台小学校体育館

編集後記

街路や公園の銀杏の葉が黄色に染まり、紅葉もすっかり紅色に変わり落ち葉をふみしめながら秋を満喫できる季節になりました。今月は吹田地区の全体集会が開かれ久しぶりにお会いできた方、日頃の活動について話ができてお互いの励みにもなりました。本紙にはこれまで情報交換の場として種々の原稿を寄せていただいて参りました。これからも、グループ活動の紹介や身近な出来事などの原稿をお願いいたします。